

第 1523 回 (11 月 12 日)

農家人口と農業就業人口の将来推計

松 久 勉

戦後一貫して減少を続けてきた農家人口は、1975 年から 85 年までその減少は緩やかになった。しかし、85 年から 90 年にかけて再び減少幅が拡大した。さらに、いわゆる「昭和 1 けた層」がリタイアするのが間近に迫ってきている。このようななかで、将来的に農家人口及び農業労働力がどのくらい存在するのかについて推計したのが本報告である。

(1) 農家人口の推計

農家人口を推計するのには、出生率、移動率等について仮定しなければならない。まず、出生率についてみると、全国の一般世帯でもかなり低下してきているが、農家も同様に低下しており、合計特殊出生率で 1.85 人と人口再生産に必要な 2.08 人を大きく下回っている。これは、女性の晩婚化、非婚化によるものとみられる。次に、移動率であるが、農家の減少等による減少率は、85 年から 90 年にかけて農家の減少の拡大と比例してその幅を拡大している。しかし、若年層での減少率は、この 10 年間でそれほど変化してない。移動率は、85 年から 90 年の傾向がそのまま続くと仮定した。

以上の仮定から、農家人口を推計すると、1990 年に 1,760 万人だったのが、2000 年に 1,345 万人、2010 年に 1,018 万人、2020 年には 752 万人となり、1990 年比で 43.5% になる。65 歳以上比率も 1990 年の 20% から 2020 年には 35% にまで達する。

(2) 農業労働力の推計

農業労働力の指標として、農業就業人口及び基幹的農業従事者について推計した。二つの推計とも、推計人口に年齢別の就業率をかけてもとめた。この場合の就業率は、世代に

よってそのレベルに差があり、それに年齢の影響をうけるというコーホート就業率で推計した。

農業就業人口は、1990 年に 565 万人だったのが、2000 年に 431 万人、2010 年に 297 万人、2020 年に 200 万人と 1990 年の 35% にまで減少する。

基幹的農業従事者は、1990 年の 312 万人が 2000 年に 218 万人、2010 年に 140 万人、2020 年に 94 万人と 100 万人を下回る。2020 年には 1990 年の 30% しかおらず、農家人口、農業就業人口以上に減少することになる。65 歳以上比率も、1990 年の 29% から 2020 年には 53% と過半数を超えるという水準にまでなる。

(3) 地域類型別推計結果

全国と同様な方法で、地域類型別の推計を行うとかなりの格差が生じる。都市的地域では、出生率が低く、農家の減少も多いことから、農家人口は大きく減少するが、基幹的農業従事者はかなり維持される。平地農業地域では、移動率が比較的少なく農家人口の減少は比較的小さいが、基幹的農業従事者の減少は著しい。山間農業地域は、出生率が高いものの若年層での移動率が高く、農家人口の高齢化が進行する。基幹的農業従事者も、高齢者の定年帰農が多いこと、リタイアが遅いことから高齢化がさらに進行する。